

省エネに向けた暖冷房機器の能力適正化

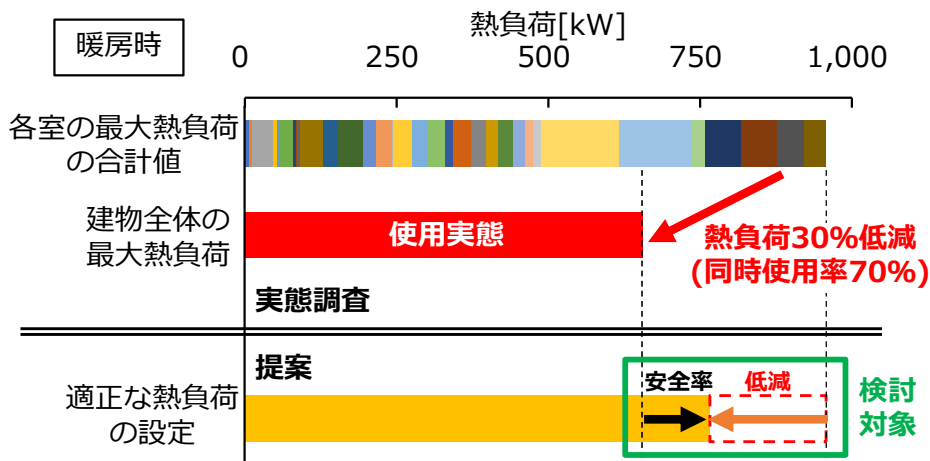
背景

暖冷房機器は能力に余力を持たせて設計される傾向があり、建築物の更なる省エネ化には、使用実態を踏まえた能力の機器選定が重要。

成果

1 同時に使用される暖冷房機器の稼働状況（同時使用率）の把握

温水・冷水で暖冷房を行う事務所の熱負荷を調査

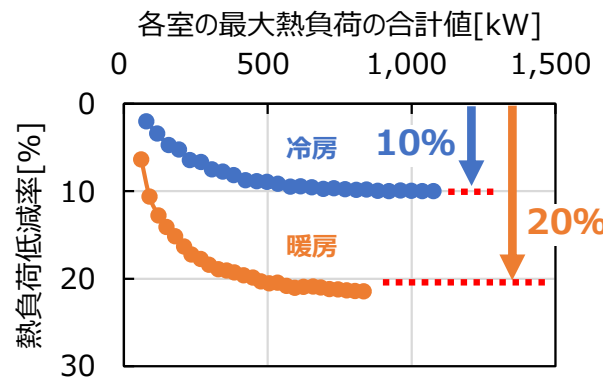


安全率を見込んで設計時の熱負荷を小さくできる

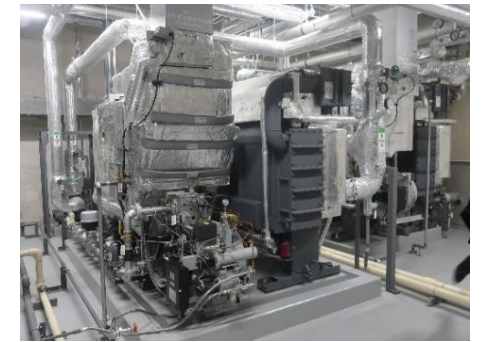
期待される効果

使用実態を踏まえた機器選定により設備の運転効率が向上し、建築物の省エネに貢献。

同時使用率を見込むことにより、建物全体の熱負荷を小さく設定できる



設計する機器の能力を最大 暖房20%、冷房10%低減できる

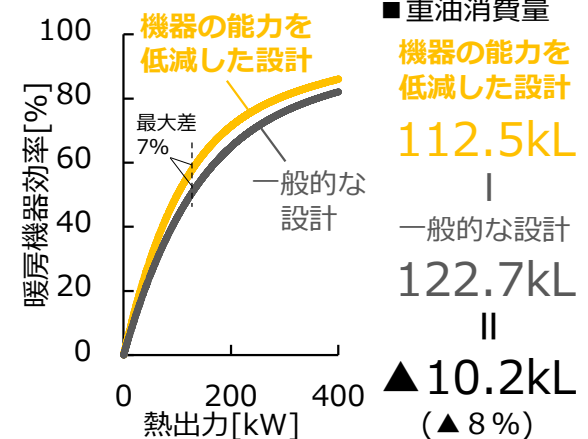


暖冷房機器の例

2 省エネ効果の試算

設計する機器の能力を低減

運転効率の向上・省エネ化



※調査事務所を対象に、暖房時の同時使用率80%で試算